

支 部	通 信
同 舟	
21 号	10 月
10月3日編集発行	
東京都宅地建物 取引業協会	府 中 支 部
編集兼発行人 高野 豊 次	

十月定例理事会開催

と き 十月二日午後四時半より

と ころ ダイワ不動産

出席者 横峠、辻、小林、結城、石黒、

内山、平井、山村、高野各理事及

び加藤監査

要領次の通り

一、協議及び伝達事項

(1) 秋季懇親旅行について

本紙九月号をもって予告した秋季懇親旅行は辻、平井、両理事が実地下見の結果、左記の通り実施することとなったので店主は勿論、従業員家族等、多数参加を希望する。

○と き 十月十九日―二十日

○行 先 日光より川治温泉

○会 費 一人参千五百円

○発着時刻その他詳細

十月十九日朝八時大國魂神社集合、直ちにカクタス観光バスにて発車、日光見物―中禅寺湖―途中紅葉観賞午後四時半―川治温泉着

旅館 東山閣(泊)―宴会―余興

十月二十日午前十一時川治発―五十里

湖―大谷観音―午後五時半―府中帰着

○申込み十月八日までに平井担当理事又は直接支部へ

(2) 秋季懇親旅行招待者について

今次実施する懇親旅行に招待する者を

協議の結果、小林、守屋、各顧問、及び住宅各新聞社等にそれぞれ案内状を發することとした。

(3) 税務説明会について

府中と調布の支部が共同で税務説明会を開催することとなったので奮って参加を希望する

期 日 十月二十二日(金)午後二時より

場 所 八千代信用金庫府中支店二階

説明者 武蔵府中税務署担当官

(4) 業者の実態調査について

明年二月中頃、東京都及び業協会本部は当支部員の実態調査をする筈でこれは要するに業法に定められた各事項が実際に行なわれておるかどうかを調査をするもので、いずれ具体化の上は事前に通報することとならん。

“人と店”

府中警察署前に一見洋風の建物がある即ちたま土地本店である。店主は加藤武君で外に厚木に支店があり従業員は五名である。

終戦後東京滝ノ川で不動産業を手がけたのが始まりでその後転々としたが七年前に京王線中河原駅前に店を持ち現在の処へはごく最近に移転した。

ところで中河原での七年が彼の最も好況時代で現在の財はすべてこゝで築きあげたという。

竹を割った様な性格でよく是非を区分しお世辞こそいわないが商売は十年選手である。

特に銀行方面の信用が絶大であり従っ

てこれという仕事に対しては決断力が強い為いつもよい結果をもたらしている。

支店と本店に半々の勤務だが厚木へ行っている間は、夫人が本店を采配している。

家庭には四女あり、趣味は囲碁である。

今後の発展を期待するとともに自重自愛を望んで止まない（千葉県茂原の産、本年四二才）

一口随想

高野生

何もお愛想のない叔母の家へ行くよりも秋の野山へ行けと昔からの諺がある。その通り秋の野山は実に味覚の宝庫である。

栗あり、あけびあり、山ぶどう、しらぶじ、松茸、きのこ等々山野至る処に舌づつみを打つ味覚の何かしらがある。

或秋の夕方のことである。部下のBという男がこんなきのこがたくさん生えているので少々取ってきたと私の前に無雑作に差出した。

みればきのこ十枚ばかりだが裏のひだがきれており古老の云い伝えにも裏のひだが縦に切れておれば毒茸でないということを思い、一同夕飯に食べてみようと衆議が一決した。そして早速おみおつけにして四人で食べてみるとコリコリとして歯切れが良く仲々美味しいので二杯三杯食った人もあり明晩もとってこようと約束した。

ところが食ってから一時間もしないうちがいい合わしたように皆がお腹が痛

いといい出しそのうち、あげる、下すの大騒ぎで一晩一睡もせず死ぬ思いをした。よく調べて見るとこの茸は月夜茸といい、暗いところでは磷光を発する有毒茸と判り、一同一命を失わなかったことを不幸中の幸いと喜んだ。

秋の野山は楽園で然も味覚の宝庫ではあるが時にこうした失敗があり、それが今以っての思い出の種となっている。

投稿勸迎

会員の随筆、短歌、意見、なんでも結構です。投稿を勸迎する。編集部

編集後記

○先月二十号を出したと思っただのにもう二十一号を編集せねばならない。昔流、にいえば歳月は走る駒よりもすみやかにとやらである。

○各支部でもポツポツ支部報を発行している。内容も立派だし、体裁も良い。会員の数の多いのがなによりの武器である。

○当支部は組合員が五十名に満たず、何をやるのにも金がない、同舟も印刷してもっと内容を充実したいが仕方がない。

○あと三ヶ月でお正月だが今のうちに懸命の努力をしたい、然し景気は依然、不況で困ったものである。

昭和四十年十月二日夜

高野しるす